

従するは、人間の義務なりと思惟したり。因て彼は此のアルラーの道を教へて、一般人民を救済すべき天職を負へる者たるを明かに體認し、自ら其の主アルラーの豫言者、實行者たることを確信せしなり。

哥蘭經

マホメツトがヘエラ山中に於て得たる、自覺信念は、凝つて萬言の哥蘭經と爲れり。彼は此の哥蘭經を懷きて、蹶然ヘエラ山中を出で、メツカに歸るや、熱誠を揮ひて、アルラーの唯一神教を鼓吹せり。即ち是れ回々教即ち「イスラム」教の世に現はれたる始なりとす（「イスラム」とは、^{ゴッド}神に服従する義なりと）

爾來幾多の妨害を受け、危険に遭遇したるも、鐵石の如き決心と、烈火の如き熱誠を以て、萬艱を排除し、窮境を脱離し、自己の信教を擴布する爲め、遂には劍の力に頼るに至れり。

斯くの如くマホメツトは時代の低劣なる思潮を達觀し、時弊と要求とを深く看取して、アルラーの唯一神教を發揮し、之に依て世の迷信を打破せんとせしは、亦千古の卓見たるを失はず。

教義

マホメツトの鼓吹せし、回々教の教義如何なるものかは、彼がヘエラ山中靜坐の